

「神への畏れと偉大な御業」

～この地上でも主のぬくもりを感じつつ歩む～

「ですから躊躇せず、神の御座に近づいてあわれみを受け、時にかなって与えられる恵みをいただくではありませんか。」ヘブル4章16節 [リビングバイブル]

「私たちはまぢがいなく受け入れられるという確信と真実な心をもって、神の御前にまっすぐに進み出ようではありませんか。すでに、私たちの心はキリストの血を注がれてきよめられ、体はきよい水で洗われているのです。」ペブル10章22節 [リビングバイブル]

「私たちは何ものにも滅ばされない御国を与えられているのですから、感謝の思いときよい畏れとをいだいて仕え、神に喜んでいただくではありませんか。」ペブル12章28節 [LB]

本村弘兄が金曜夜遅く、主のみもとに召されました。静かに安らかに天に帰って行かれました。きっと、天使に抱えられるようにして、大分軽くなったお体でしたが(霊ではどうであったかは分かりませんが)、何も心配もいらぬ状況で天に召されていったことでしょう！！

私たち人間には欲がありますから、この地上での人生は彼にとっても、もっともつとつと思う思いは正直にあったと思いますが、二つの目標、①娘さんの杏里さんの結婚式で共にヴァージンロードを歩くこと。②少し前にご結婚されたご長男の建てられた新築の家を岐阜までご次男の大きな車に乗って見に行くこと。この大きな二つの目標を数週間の内に成し遂げられて、岐阜までの旅行では一泊二日で行かれましたが、体力的にはかなりの負担があったようですが、思い残すことのないようにやり切ったという達成感の内におられたことと思います。もう一つでも神様のもとに昇って行っても構わないという気持ちになっておられたかもしれません。

亡くなった日の夜、夜8時頃まで、岐阜からご長男が来られていて、病室でしばらくご家族で時を過ごしておられたとのことでした。そんな暖かいご家族の団らんの中で、満足げに心も満たされておられたことでしょう。主によってすべてを導かれ、守られ、天に帰ることができたと思います。そして、その夜、天に帰って行かれました。ご遺体のお顔も、本当に満足そうなお顔をなさっていました。

私たちの神様は、私たちに向かって大きな手を広げて、満面の笑みを浮かべて、私たちを迎えてくださいます。それは、この地上にいたとしても、私たちはその主の懐のぬくもりを感じることができます。主は天地宇宙を造られ、ご支配してくださっている偉大な、畏れ多いお方ですが、そのお方は、私たちをこれ以上ない一杯の愛で、私たちを抱きかかえてくださるお方でもあります。そのお方のむくもりを肌で感じつつ、この地上での人生を歩んでいただきたいと思えます。放蕩息子の父親のように、私たちをいつでも心より愛して、受け止めておられるお方のその手のぬくもりを感じつつ歩んで行きましょう！